

木漏れ陽

2月

平成30年2月20日 第50号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 中村祐二郎

佐賀市研究所員会は、各学校から推薦された先生が毎月1回集まり、当面する教育課題や教科等の研究をしています。研究成果の発表は1月25日に実施されました。限られた時間内での研究ですが、所員の先生の力量アップにつながるるとともに、異なる学校や校種の先生と横のつながりもできています。以下今年度研究所員会の課題研究部のまとめ「あとがき」より紹介します。

平成27年6月17日に公職選挙法の一部を改正する法律が成立し、同年6月19日に公布されました。改正法の成立に伴い、選挙権を有する者の年齢が満18歳以上に引き下げられました。改正法により、未来の日本の在り方を決める政治について、より多くの世代の声を反映することが可能になる一方で、国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、課題を多面的・多角的に考えて、自分なりの考えをつくっていく力を育むための「主権者教育」がこれまで以上に重要になってきます。

そのような中で、平成29年3月31日に新しい学習指導要領が告示されました。「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、カリキュラム・マネジメント、目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びなど指導方法や学習評価の充実・改善、道徳教育、特別支援教育、プログラミング教育、外国語等新たな内容や改善すべきことが明示されました。来年度から小学校は、2年間の移行期間に入ります。学校現場では、教育課程の見直しなど、早急に取り組んでいかなければならない課題が山積している状況です。

このような教育の流れの中で、佐賀市教育研究所では課題研究部の研究の方向性として、「主権者として求められる力を育むために、どのような考え方で、どのような指導を行っていったらよいのか」という「主権者教育の推進・充実」に向けた研究に取り組むことになりました。

研究を始めてしばらくは、小中学校の発達段階の違いや学習内容の違いなどから、思うようなキーワードが見つからずなかなか研究が進みませんでした。毎月の研究所員会において、「主権者とは?」「市民性とは?」「授業レベルで考えると?」「どんな児童生徒に育てるのか?」と議論を繰り返すことで、「よりよい社会の実現」「主体的に」「社会に関わる」等の言葉がキーワードとして所員の中に共有化され、小学校部会は「地域社会とつながる基盤の育成を目指して」、中学校部会は「主権者として求められる力を育む」というサブテーマが決まり、所員の先生達の授業実践がスタートしました。

小学校部会では国語科や社会科、総合的な学習で横断的な取り扱いをしながら、地域に潜む課題の解決に向けて思考する学習活動を仕組んでいきました。地域社会の事象や人材とつながる単元を工夫し授業実践を重ねることで、地域社会に対する見方が多様になり課題を見いだすことができるようになりつつあります。中学校部会では、主権者教育が単に政治のしくみについての知識習得に終わるのではなく、社会の一員として生徒に地域の課題解決を主体的に担う力を身につけさせるには、どの単元でどのような課題を設定することがより効果的であるかを検討していきました。自分の住む「まち」にスポットをあてたこと、ラーニング・パートナーを家庭や外部に求めたことは、教科書からだけでは得られない主体的な学びにつながりました。人材発掘の重要性やその情報共有の必要性など、今後研究を進める上で布石となっていくと思われます。

最後になりましたが、課題解決に向け熱心に取り組んでいただいた所員の方、ご指導・ご助言をいただきました佐賀市教育委員会指導主事の先生方に深く感謝申し上げます。本研究の取組が各学校や先生方の取組の一助になることを願っています。

佐賀市教育研究所 課題研究部顧問

富士小学校 校長 小川 徳晃 (小学校)

城北中学校 校長 加藤 吾郎 (中学校)

佐賀市教育研究発表会開催

1月25日(木)に、東与賀農村環境改善センターにて平成29年度佐賀市教育研究発表会を開催しました。前半は研究所員会の課題研究部と児童生徒理解部による発表、後半は個人研究発表でした。部分的な参加を可能にしたり若手の先生に声を掛けてもらったりしましたが、他の研修と重なったため参加できなかった学校もあったようです。参加者は、小学校75名、中学校34名、合わせて109名でした。お忙しい中に参加していただきありがとうございました。研究の詳細については、市ホームページや共有フォルダにて後日お知らせします。今後の授業実践にぜひ活用していただけたらと思います。

課題研究部	よりよい社会の実現を目指して主体的に社会に関わろうとする児童生徒の育成 ～小学校 地域社会とつながる力の基礎の育成を目指して～ ～中学校 主権者として求められる力を育む～
児童生徒理解部	児童・生徒の自己有用感を育む集団づくり ～小中の連続性を図る学習集団づくり・授業づくりを通して～
個人研究発表	10人の先生が研究主題に沿って1年間研究した成果を発表されました。まとめたものは教育論文に応募する予定です。



■64人の先生からアンケートの回答がありました。

とても参考になった、参考になった(62)あまり参考にならなかった(2)参考にならなかった(0)
主な感想をいくつか紹介します。

- ・各学校、学級の課題をよく把握し、課題解決のための取組をされていることがよく伝わり、自分自身の刺激となりました。
- ・各学校の校内研究に役立ててはどうかと考えた。
- ・自分とは校種や教科の違う先生方の発表を聴くことができたので、違った視点で自分の教育活動を振り返る機会になりました。
- ・研究所員会の発表も質疑応答があればよかった。
- ・資料や指導案等を共有できるようにしてほしい。
- ・主体的に身近なことをテーマにして取り組むと、意欲が出て関心も深まるので大切なことだと実感した。
- ・選挙権が18歳以上に引き下げられ、このような主権者教育の必要性があると思った。社会科以外でも取り組んでいかないといけないと思った。
- ・自分の学級でも自己肯定感の低い児童が多いので、学級に合いそうなものを取捨選択して実行したい。
- ・自己有用感がキーワードになっているので、佐賀市が推進している「出番一役割一承認」をフレーズに実践をキーワードごとに整理していくと全ての学校で使える汎用性の高い研究になるのではないかと思います。
- ・それぞれの分野、教科について若手教員の情熱のある研究を拝見しとても刺激を受けました。初心に戻り、またがんばらなければと思います。
- ・新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」は先生方にも言えることではないかと思います。「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の両輪を大切に、勤務校の枠を超えてさらに力を付ける取組をしてほしいと考えます。

多くの提言もいただきました。ご意見等については、次年度の研究に生かしたいと思っております。ありがとうございました。

■2月21日(木)18:30「四次元ポケット」で研究所員の先生に再度発表してもらう予定です。当日受付でも構いません。1月25日に参加できなかった先生はぜひ参加ください。